

【対策概要】

②「防災気象情報に関する検討会」による防災気象情報全体の体系整理の最終とりまとめ公表（令和6年6月）
 富山气象台では、市町村向けにリモートで、気象情報新体系整理に関する概要説明会を実施（2月28日）。

参考資料7

警戒レベル相当情報の体系整理

◎ シンプルでわかりやすい情報体系・名称に整理

令和8年度出水期運用開始を予定

【洪水】：氾濫による社会的な影響が大きい河川（洪水予報河川、水位周知河川）の外水氾濫を対象とし、河川ごとの情報とする。
 これ以外の河川の外水氾濫については、内水氾濫と併せて市町村ごとに発表する【大雨浸水】に関する情報とする※1。

【土砂災害】：発表基準の考え方を統一し、災害発生の確度に応じて段階的に発表する情報とする。

【高潮】：潮位に加えて沿岸に打ち寄せる波の影響を考慮し、災害発生又は切迫までの猶予時間に応じて段階的に発表する情報とする。

警戒レベル相当情報※4	洪水に関する情報 「洪水危険度」		大雨浸水に関する情報 「大雨危険度」※1		土砂災害に関する情報 「土砂災害危険度」	高潮に関する情報 「高潮危険度」
	氾濫による社会的影響が大きい河川（洪水予報河川、水位周知河川）の外水氾濫		内水氾濫及び左記以外の河川の外水氾濫		基本的により市町村ごと	沿岸ごと又は市町村ごと※2
発表単位	河川ごと		基本的に市町村ごと		基本的に市町村ごと	沿岸ごと又は市町村ごと※2
5相当	レベル5 氾濫特別警報※3		レベル5 大雨特別警報		レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報※3
4相当	レベル4 氾濫危険警報		レベル4 大雨危険警報		レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報
3相当	レベル3 氾濫警報		レベル3 大雨警報		レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報
2	レベル2 氾濫注意報		レベル2 大雨注意報		レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報

名称変更の一例：現状との比較

土砂災害に関する情報		
発表主体	都道府県と气象台	气象台
発表単位	市町村ごと	市町村ごと
発表指標	60分雨量（解析・予測） 土壌雨量指数（解析・予測）	土壌雨量指数（解析・予測）
情報名称	5相当	大雨特別警報（土砂災害）
	4相当	土砂災害警戒情報
	3相当	大雨警報（土砂災害）
	2	大雨注意報

これまで「土砂災害警戒情報」は、警報等とは別系統であり情報名称も異なっていたが、警報等の同じ系統の情報で「レベル4 土砂災害危険警報」と名称も統一するように改善することが提言された。

・情報名称の最終決定は、法制度や実際の情報の運用、伝え方なども踏まえ、気象庁・国土交通省が行う。

※1 警戒レベル相当情報への位置づけについては、関係機関で今後の課題として検討。

※2 発表単位をどうすべきについては、情報利用者の視点も踏まえつつ、引き続き関係機関で検討。

※3 洪水予報河川または水位周知河川、高潮に関する情報の対象沿岸において氾濫の発生を確認した場合、その旨を氾濫特別警報または高潮特別警報の文章情報等に明記。

※4 警戒レベル相当情報とは、国・都道府県が発表する防災気象情報のうち、居住者等が自ら行動をとる際の判断に参考となる防災気象情報と5段階の警戒レベルとを関連付けるものである。警戒レベル相当情報が発表されたとしても必ずしも同時に同じレベルの避難情報が発令されるものでない。

1

警戒レベル相当情報の体系整理（洪水・浸水）

現状

洪水に関する情報				大雨浸水に関する情報
分類	洪水予報河川	水位周知河川	洪水予報河川・水位周知河川以外の河川	
河川数	429河川	1,774河川	約20,000河川※1	—
発表主体	河川事務所または都道府県と气象台	河川事務所または都道府県	气象台	气象台
発表単位	河川ごと	河川ごと	市町村ごと	市町村ごと
対象とする現象	外水氾濫	外水氾濫	外水氾濫 湛水型の内水氾濫	内水氾濫による浸水 （外水氾濫による浸水※2）
発表指標	【2～4相当】 水位（実測・予測） 【5相当】 実現象（確認）	【2～4相当】 水位（実測のみ） 【5相当】 実現象（確認）	流域雨量指数 表面雨量指数 （解析・予測）	表面雨量指数 （流域雨量指数※2） （解析・予測）
情報名称	5相当	氾濫発生情報	氾濫発生情報	【5相当】大雨特別警報 （浸水害）※2
	4相当	氾濫危険情報	氾濫危険情報	
	3相当	氾濫警戒情報	氾濫警戒情報	大雨警報（浸水害） 大雨注意報 警戒レベル相当情報としての位置づけなし
	2（相当）	氾濫注意情報	氾濫注意情報	洪水注意報

「防災気象情報に関する検討会」最終とりまとめ（R6.6）より抜粋

※1 洪水キキクルで対象としている河川数（準用河川や普通河川も含まれる）

※2 大雨特別警報（浸水害）のみ外水氾濫も対象とする

内水氾濫による浸水のみを対象（レベル5相当を除く）

洪水予報河川、水位周知河川以外の河川（その他河川）の外水氾濫と湛水型の内水氾濫も、対象に。

改善（イメージ）

洪水に関する情報				大雨浸水に関する情報 （洪水予報河川・水位周知河川以外（その他河川）の洪水に関する情報を含む）
分類	洪水予報河川	水位周知河川		
河川数	429河川	1,774河川		—
発表主体	河川事務所または都道府県と气象台	関係機関が協力して発表		气象台
発表単位	河川ごと	河川ごと		市町村ごと
対象とする現象	外水氾濫	外水氾濫		内水氾濫による浸水 （湛水型の内水氾濫も含む） その他河川の外水氾濫
発表指標	【2～4相当】 水位（実測・予測） 【5相当】 実現象（確認）	【2～4相当】 水位（実測のみ） 【5相当】 実現象（確認）	流域雨量指数※3 表面雨量指数 （解析・予測）	表面雨量指数 流域雨量指数 （解析・予測）
情報名称	5相当	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 大雨特別警報
	4相当	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 大雨危険警報
	3相当	レベル3 氾濫警報	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報
	2（相当）	レベル2 氾濫注意報	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報

湛水型の内水氾濫
 河川周辺の雨水が河川の水位が高くならないため排水できずに発生。
 発生地域は堤防の高い河川の周辺に限定される。

その他河川の外水氾濫
 河川の水位が上昇し、堤防を越えたり破壊するなどで堤防から水があふれ出す。

複合基準
（表面雨量指数＋流域雨量指数）

流域雨量指数

※3 住民等に対し今後の水位の見込みを伝える際に活用

情報名称の最終決定は、法制度や実際の情報の運用、伝え方なども踏まえ、気象庁・国土交通省が行う

2

水位周知河川に関する情報について

- 現在、国・都道府県が発表している水位到達情報に、気象庁の流域雨量指数の技術を活用して今後の洪水の危険度の見込み情報を付して情報発表する。
- 運用開始当初は、**国管理河川のみを扱う**（都道府県管理河川の運用については検討中）。
- 当面、国管理河川では、国から発表される水位到達情報を気象庁システムで受信し、流域雨量指数のデータをもとに今後の洪水の危険度の見込み情報をシステムで自動で機械的に付加し、気象台と河川事務所の連名で発表。

氾濫発生

レベル5氾濫特別警報

氾濫危険水位

レベル4氾濫危険警報

避難判断水位

レベル3氾濫警報

氾濫注意水位

レベル2氾濫注意報

到達水位に応じて、各レベルの情報を今後の洪水の危険度の見込みを付して発表 ※情報名称は検討中

情報作成のイメージ

水管理・国土保全局



水位到達情報を受信



気象庁

水位周知河川に関する情報を発表

到達した水位にあわせて、各レベルの情報を自動的に作成して発表
洪水の危険度の見込み情報の付加には、流域雨量指数の技術を利用
(作成は自動処理)

レベル4 ○○川 氾濫危険警報
○○年○○月○○日○○時○○分
□□河川事務所・△△地方気象台発表
(第○○号)

情報文のイメージ

(見出し)

【警戒レベル4相当情報[洪水]】○○川では、氾濫危険水位に到達し、洪水の危険度は今後さらに上昇する見込み

(水位の状況)

【警戒レベル4相当情報[洪水]】○○川の○○水位観測所(○○市)では、○○日○○時○○分頃に氾濫危険水位(○○m)に到達しました。市町村からの避難情報を確認するとともに、各自安全確保を図るなど、適切な防災行動をとってください。

(今後の見通し)

○○川では、水位が氾濫危険水位に到達しています。**洪水の危険度が今後さらに上昇する見込み**ですので、厳重に警戒してください。

(参考資料)

(水位の状況)や(参考資料)の内容は水位到達情報から取得

観測所名	○○水位観測所	○○市
レベル4水位 氾濫危険水位※	○○m	
レベル3水位 避難判断水位※	○○m	
レベル2水位 氾濫注意水位	○○m	
レベル1水位 水防団待機水位	○○m	
受け持ち区間	左岸 ○○から○○	右岸 ○○から○○
氾濫が発生した場合の浸水想定区域	○○県○○市	△△市△△町

注：情報名称は検討中のため、今後、変更の可能性がある。

防災気象情報の体系整理と最適な活用に向けて (「防災気象情報に関する検討会」取りまとめ) 国土交通省

気象情報（解説情報）の体系整理

◎ 情報の性質を把握できるよう分類して提供

- これまでいくつかの種類の「気象情報」として伝えていた情報は、線状降水帯をはじめとした具体的な極端現象が発生または発生しつつある場合にその旨を伝える「**極端な現象を速報的に伝える情報**」と、現在及び今後の気象状況等を網羅的に伝える「**網羅的に解説する情報**」に分類して提供。
- それぞれの区別がつくよう統一的な情報名称とし、「線状降水帯」などのキーワードを付すことにより情報へのアクセスを改善。

極端な現象を速報的に伝える情報・・・「気象防災速報」

現在

- 顕著な大雨に関する気象情報
- 記録的短時間大雨情報
- 顕著な大雪に関する気象情報
- 竜巻注意情報

整理後

- 気象防災速報（線状降水帯発生）
- 気象防災速報（記録的短時間大雨）
- 気象防災速報（短時間大雪）
- 気象防災速報（竜巻注意／竜巻目撃）

網羅的に解説する情報・・・「気象解説情報」

現在

- 全般/地方/府県気象情報
- 全般台風情報

整理後

- 気象解説情報（※）
- 気象解説情報（台風第○号）

※何に着眼した情報なのか分かるよう、括弧内にキーワードを付す。

防災気象情報の最適な活用に向けて

- ・ 防災気象情報の基盤となる**データの提供の更なる推進**と共に、コンピュータで容易に処理できるよう**機械可読性の改善**も進める必要。
- ・ 「押し型」の防災気象情報とあわせて、ホームページ等に掲載する「**プル型**」の**コンテンツの活用を推進**すると共に、当該**コンテンツの充実**を図ることが重要。 ⇒ **気象庁HPのデザインも変更される予定（詳細は未定）**
- ・ 防災気象情報を受け取った者が自ら考え主体的に行動することができる社会の実現を目指し、以下を推進する必要。
 - 防災気象情報の特徴・特性に対する理解が社会において深まるよう、**平時から知見を積み上げられる環境の構築**（ホームページへの解説資料の掲載等）
 - 国による普及啓発活動に加え、**様々な関係主体（教育機関、専門家、報道機関等）による普及啓発活動の推進**